

令和6年度

第6回大分県教育委員会 議事録

日 時 令和6年6月27日(木)  
開会9時35分 閉会10時16分

場 所 教育委員室

令和6年度  
第6回大分県教育委員会

## 【議 事】

### (1) 報 告

令和6年第2回定例県議会議案に対する教育委員会の意見について  
令和6年度地域とともに輝く高校魅力化事業について

## 【内 容】

### 1 出席者

<b>委 員</b>	教育長	山 田 雅 文
	委 員（教育長職務代理者）	岩 崎 哲 朗
	委 員	高 橋 幹 雄
	委 員	鈴 木 恵 代
	委 員	岩 武 茂 代
	委 員	岡 田 豊 弘
<b>事務局</b>	教育次長	大 和 孝 司
	教育次長	山 田 誠 司
	教育次長	武 野 太 平
	教育改革・企画課長	鈴 木 耕 平
	教育人事課長	吉 雄 幸 平
	高校教育課長	小 野 和 正
	教育改革・企画課 総務企画監	角 淵 達 彦
	教育改革・企画課 課長補佐（総括）	新 貝 隆
	教育改革・企画課 主査	久 知 良 周 平
	教育改革・企画課 主査	穴 見 ひ と み

### 2 傍聴人

2 名

## 開会・点呼

(山田教育長)

委員の出席確認をいたします。  
本日は、全委員が出席です。

(山田教育長)

ただ今から令和6年度第6回教育委員会会議を開催します。

## 署名委員指名

(山田教育長)

議事録の署名については、岩崎委員にお願いします。

## 会期の決定

(山田教育長)

本日の教育委員会会議はお手元の次第のとおりです。  
会議の終了は10時00分を予定していますので、よろしくお願いします。

## 議 事

### 【報 告】

[令和6年第2回定例県議会議案に対する教育委員会の意見について](#)

(2課〔教育改革・企画課、教育人事課〕入室)

(山田教育長)

それでは、報告第1号「令和6年第2回定例県議会議案に対する教育委員会の意見について」教育改革・企画課長から説明をしてください。

(鈴木教育改革・企画課長)

報告第1号について説明します。資料の2ページをお開きください。  
令和6年第2回定例県議会に上程された議案のうち、教育委員会関係分として、中ほどの議案名にある「大分県立学校職員及び大分県市町村立学校県費負担教職員定数条例の一部改正について」など計2議案について、知事から教育委員会の意見を求められました。

本来なら知事への回答にあたり、教育委員会で議決していただくところですが、日程の都合上、協議できなかつたため、「大分県教育委員会の権限に属する事務の一部を教育長に委任し又は臨時に代理させる規則」第3条第1項に基づき教育長が臨時代理として処分しました。3ページのとおり異議のない旨回答しましたので、同条第2項に基づき、本委員会に報告します。

議案の内容等について、それぞれ担当課長から説明しますので、よろしく願います。

(吉雄教育人事課長)

「大分県立学校職員及び大分県市町村立学校県費負担教職員定数条例の一部改正」について、説明します。資料4ページをご覧ください。

「1 改正の内容」をご覧ください。5月1日を基準日とする学校基本調査により、令和6年度の児童・生徒数が確定しました。これに伴い、県立学校職員及び市町村立学校県費負担教職員の定数も確定しましたので、条例改正を行うものです。なお、資料下段の四角囲みに児童生徒数等の前年度比較をまとめています。

「2 増減の内訳」をご覧ください。まず、(1)の県立学校職員については、中央支援学校の新設等に伴い、県立学校合計で94人の定数増となっています。(2)の市町村立学校職員については、児童生徒数が1,697人減少しているものの、35人学級が小学5年生まで拡大したこと等に伴い、小中学校合計で13人の定数増となっています。

以上です。

(鈴木教育改革・企画課長)

第2回県議会定例会において報告している、新たな大分県長期教育計画の骨子について説明します。資料5ページをご覧ください。

まず「1 計画策定の理由」です。現行計画が、平成28年度から令和6年度までの9年計画であり、今年度が最終年度となっていることから、社会情勢や、教育を取り巻く状況の変化を踏まえ、今年度中に新たな計画を策定したいと考えています。

次に「2 計画の性格・役割」です。現在新たな長期総合計画の策定を進めているところですが、この長期総合計画の教育部門の実施計画として、新たな長期教育計画を策定してまいります。

次に「3 計画の期間」です。計画開始を令和7年4月からとし、新たな県長期総合計画と目標年度を合わせる趣旨から、令和15年度を目標年度とする9年計画とする予定です。

次に「4 計画策定の基本的な考え方」です。深刻な少子高齢化、教育のデジタル化の進展、いじめ・不登校をはじめとする教育課題の複雑化・困難化など、社会情勢や教育を取り巻く状況の変化を踏まえながら、分かりやすく、教育関係者が活用しやすいような計画の策定を目指してまいります。計画の進捗管理の実効性を確保するため、目標指標の設定も行う予定です。

次に「5 計画の構成」です。6ページに詳細な構成を記載しておりますので、そちらをご覧ください。新計画は、3章構成で策定したいと考えています。

まず「第1章 『教育県大分』の創造に向けて」ですが、本章は総論部分に当たり、「1 教育改革の経緯」、「2 計画の基本理念」、「3 計画の最重点目標」の3本柱で構成したいと考えています。

「1 教育改革の経緯」では、平成20年度の事件を教訓として進めてきた、教員採用試験や人事管理の見直しなど教育行政システムの改革、全ての教職員が目標達成に向けて組織的に教育活動に取り組む「芯の通った学校組織」の構築による学校改革など、これまでの本県の教育改革の流れについて触れたいと考えています。

次に「2 計画の基本理念」です。現代では、人口減少や少子高齢化、グローバル化の進展、社会のつながりの希薄化など、以前から社会課題として挙げられてきた事象に加え、コロナ禍や国際情勢の不安定化など、まさに予測困難な時代を象徴する事態が生じています。このような時代にあって、本県の全ての子どもたちが、「持続可能な社会の創り手」として、予測できない未来に向けて自ら社会を創り出していくことができるよう、現在策定中の「大分県長期総合計画」を踏まえ、「変化の激しい社会を生き抜く力と意欲を育む『教育県大分』の創造」を基本理念として据えたいと考えています。

次に「3 計画の最重点目標」です。現行計画では、「学力」や「体力」、「グローバルに活躍する力」など子どもの力を多面的に捉え、学力偏重ではない総合的な力の育成を目指し、最重点目標として「『全国に誇れる教育水準』の達成」を掲げ、取り組んできました。新計画においても、「教育県大分の創造」の実現に向けて、引き続きこの目標を最重点目標として、取組を進めていきたいと考えています。

次に「第2章 施策」です。第1章の基本理念の下、「学びを保障し、可能性を引き出す学校教育の推進」、「社会の変化に対応する教育の展開」、「安全・安心で質の高い教育環境の確保」、「信頼と対話に基づく学校運営の実現」、「共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進」、「文化財・伝統文化の保存・継承と魅力発信」、「ライフステージに応じた県民スポーツの推進」の7つの基本目標を掲げ、それらにぶら下がる20の施策を推進していきたいと考えています。

なお、この7つの基本目標と20の施策はそれぞれ現在策定中の「大分県長期総合計画」の「施策」と「主な取組」に対応させる形で構成しております。

次に「第3章 計画のフォローアップ等」です。ここでは、計画に基づく施策の達成状況のフォローアップ体制やその方法について焦点を当てたいと考えています。

計画の構成についての説明は以上です。

資料5ページにお戻りください「6 計画への県民意見の反映」です。

先日、学識経験者や保護者代表等で構成する「大分県長期教育計画委員会」を開催し、幅広い意見をいただいたところですが、こうした有識者会議の活用やパ

ブリックコメントでの県民意見の反映に加え、今回は新たに子どもへの意見聴取を行い、広く県民からの意見を積極的に計画に反映したいと考えています。

最後に「7 今後のスケジュール」です。あくまで現時点での予定を記載していますが、令和7年4月からの新計画をスタート出来るように丁寧に準備を進めていきたいと考えています。

以上です。

(山田教育長)

ご質問・ご意見はありませんか。

(高橋委員)

有識者会議において新たな意見などを取り入れて、時代に沿ったよりよい計画を策定してください。

(岩崎委員)

今回新たに子どもへの意見聴取を行うとのことですが、どのようなことを子どもに聞いて、どのように計画に反映するのか教えてください。

(鈴木教育改革・企画課長)

子どもへの意見聴取については、Web アンケートと対話の2本柱で行いたいと考えています。

具体的にはWeb アンケートを7月いっぱいに行い、その結果も踏まえて、秋頃に子どもとの対話を予定しています。Web アンケートは、子どもの意見を幅広く聴くという観点で行うものですが、子どもや学校現場への負担を考慮して、質問は2問とし、1つは選択式の質問、もう1つは自由記述を予定しています。

選択式の質問は「学校に望むこと、先生や周りの大人にしてほしいこと」について尋ねるものであり、学力や心、体力などに関連するものに加え、ICT、部活動、文化歴史に関する事など合計14項目を設定し、その中から関心があることを選択してもらうことにしています。

自由記述については、子どもたちに「学校をよりよくするためにこうしてほしいと思うアイデア」を記述してもらうことにしています。

子どもたちのアンケートの回答を踏まえ、子どもたちとの対話に生かしたいと考えています。

(岩崎委員)

新しい計画で施策が7つに整理されていますが、主にどの部分に子どもの意見を反映させる予定なのか教えてください。

(鈴木教育改革・企画課長)

施策をあらかじめ特定するものではありません。当事者である子どもたちが

ら自由に幅広く意見をもらうことによって、子どもたちがどういったところに興味や課題意識を持っているのかを把握したいという趣旨がありますので、ある部分に特化したものを聴取したいというものではありません。

(岩崎委員)

子どもたちの意見は、様々な面から多様な意見が出てくると思うので、それをどのようにして施策に取り入れるのかが大変だと思いますが、頑張ってください。

(鈴木教育改革・企画課長)

子どもへの意見聴取を行った結果については、概要をまとめ、有識者会議で示しながら計画の議論に活かしてもらうことも予定しており、そのうえで、事務局においても、最終的に計画の中にどういった部分で反映出来るかを考えていきたいと思えます。

(高橋委員)

子どもへのアンケートや意見交換の結果について、我々にも情報共有をお願いします。

(鈴木課長)

わかりました。

(岩武委員)

子どもの意見を聴くというのはわかりましたが、実際に子どもたちや保護者と接する現場の先生の意見を反映される予定はありますか。

(鈴木教育改革・企画課長)

全ての県民を対象としたパブリックコメントを行うことに加え、市町村教育委員会、校長会、PTA などの関係団体から書面により意見を伺う予定にしていますので、それらのツールを活用したいと考えています。

計画策定にあたり、現場の先生の声についても念頭においてしっかりと進めていきたいと考えています。

(岩武委員)

いい計画を作りたいのであれば、校長、PTA 会長などの「長」が付く人の意見だけでなく、現場の先生の意見を聴くべきだと思いますので、できれば検討していただければと思います。

(鈴木委員)

様々な意見聴取を行うとのことですが、計画に書かれない部分についても、こういった意見があったということで、活用できる仕組みを作ったほうがよいと思

っています。

特に子どもの意見を無駄にせず、大事にしていただければと思います。

## 令和6年度地域とともに輝く高校魅力化事業について

(2課〔教育改革・企画課、高校教育課〕入室)

(山田教育長)

次に、報告第2号「令和6年度地域とともに輝く高校魅力化事業について」高校教育課長から説明をしてください。

(小野高校教育課長)

「地域とともに輝く高校魅力化事業について」報告します。9ページをご覧ください。

本事業は、学校の特色化を図ることで、地域に信頼され、中学生に選ばれる魅力ある学校づくりを推進することをねらいとしています。今年度も、昨年度に引き続き19校を採択しました。

事業の概要ですが、今年度は高校の魅力づくりを更に進めるとともに高校の魅力を発信するプロジェクトに全ての採択校が取り組むこととしました。

資料中段に、昨年度実施した高校の取組の具体例を挙げています。中津南耶馬溪校では、地域の活性化に関する課題発見学習の中で、進路探究や社会探究を実践しています。また、地元小学校への高校生による「ホタル授業」や、高齢者サロンでの交流を通して地域と連携を深めています。

昨年度から新たに採択された安心院高校では、地元企業と連携した「発酵・醸造」をテーマとした探究学習に取り組んでいます。また、地元の葡萄酒祭りでは、高校生がボランティアとして積極的に活動しています。

各学校の取組の成果として、採択校19校中、定員が充足したのが2校、前年入試と比較して欠員が減少したのは8校、そのうち10名以上欠員が減少したのは4校ありました。また、大学入試においては、総合型選抜や学校推薦型選抜による国公立大学合格者は採択校19校中15校で93名となっています。15校の中には、5校の専門科からの合格者を含んでいます。各学校が探究活動の充実を図ってきた成果によるものと考えています。

一方、高校の取組や魅力について、地域や中学生、その保護者への情報発信が不十分であるとの声も多くあげられています。そのため、今年度の魅力化事業では各学校が学校PR動画の充実やSNS等を活用するなど、各学校の魅力発信を特に強化することとしています。

10ページと11ページには、昨年度の魅力化事業について、特に地域との連携や協働による取組紹介について触れています。耶馬溪校の「ホタル授業」の取組については、今年6月に行われた全国ホタル研究会でも高校生が地元小学生と協力して研究発表を行っています。安心院高校については5年ぶりに開催された

安心院葡萄酒祭りでのボランティア活動、日出総合高校については各学科の特色を活かした中学校での出前授業、由布高校については課題解決のためのアイデア創出方法を企業人から学ぶ取組等について紹介しています。由布高校での商品開発に係る取組では、「大分の名所・名産がプリントされたトイレットペーパー」が商品化されています。その商品を持参しましたので、ご覧ください。

12ページをご覧ください。令和6年度「地域とともに輝く高校魅力化事業」の取組の一覧です。各校において、生徒自ら地域が抱える課題を捉え、積極的に関わろうとすることで、課題解決能力や提案する力の向上につながると考えています。今後も各校の円滑な計画・実施を支援し、定員確保をはじめとする成果につなげたいと考えています。

13ページをご覧ください。魅力推進事業ではありませんが、高等学校DX加速化推進事業について報告します。この事業は、デジタル人材の育成に向け、高等学校段階でのICT機器の環境整備や外部人材の活用等について、文部科学省が支援を行うものです。大分県からは、12校の県立高校が採択されました。右側の上段には取組の具体的なイメージ、下段には採択校の主な取組内容を記載しています。採択校では、探究的な学びを強化するための環境を整備するとともに、外部の専門人材を活用した研修や授業に取り組むこととしています。

この事業は、魅力化推進事業とともに、高校の魅力づくりにつながるものと考えています。今後も、高校の魅力・特色化とともに、デジタル人材の育成につながるような取組も推進していきます。

以上で報告を終わります。

(山田教育長)

ご質問・ご意見はありませんか。

(高橋委員)

安心院の葡萄を使ったワインの実習や、ホテルの取組もそうですが、是非、今後につなげてもらいたいと思います。

例えば、ホテルの研究を通じて農学や生物学の分野に進み、研究を重ねて研究者になったり、ワインづくりを通じて、なぜこの地域でワインが成長してきたのかという根本的な理解を深め、特産品を活かしたワイン工房をつくったり、そういった道筋につながる取組になることを期待しています。高校生活の一つの研究活動ではなく、将来の自分自身や地域の糧になるようなものにつなげていってください。

また、最終的な結果は別として、地元の企業を巻き込み、より広く発信していただければと思います。以前、玖珠美山高校のブルーベリージャムをいただいたのですが、他のジャムを食べられなくなるほどの品質でした。高校生レベルでは発信力や生産能力に限界があるかもしれませんが、地元の企業とコラボレーションできないかと、いつも思っています。

(小野高校教育課長)

今、言われたとおり、地域の強みを形にして、それから生徒が知恵を出し合っ  
て形にすることが大きな取組と考えています。それが学校内だけでなく、企業と  
か、研究機関にもいろいろとつながって、学校内にとどめないような学びにして  
いきたいと思います。

(山田教育長)

他にありませんか。

(鈴木委員)

欠員が出ている高校は、なぜ中学生に選ばれなかったのかという調査をしたこ  
とがありますか。

例えば、大分市の高校に市外から通っている生徒さんも多いと思います。選ば  
れる学校になるということですが、なかなか定員に満たない、達成できていない  
学校がたくさんあります。

高校単独では、かなり魅力的な取組をしていると思いますが、なかなか壁が越  
えられない状況があります。すばらしい取組をしても、すぐに定員充足につ  
ながらない状況を見てきています。

なぜ選ばなかったのかという根本的な原因がもう少しはっきりしないと、対策  
を立てるのは難しく、様々な取組をしても、もったいないような気がします。今  
は様々なツールを使えば簡単に調査ができると思います。タブレットを活用して  
簡単なフォームを作り、そういった調査をされてはどうかと思います。

(小野高校教育課長)

今、言われたように、なぜ選ばれなかったのか、という具体的なところを調査  
という形としてはやっていません。ただ、逆サイドである入学生に対して、なぜ  
選んだのかというアンケートをとるようにしています。

また、中学校の校長先生や先生方を通じて、高校の校長先生が聞き取りもして  
おり、その結果を我々が吸い上げるようにしています。魅力化事業を申請する  
ときに、入試結果を課題として、それを踏まえた上で、中学生にヒットするよう  
にどういう魅力づくりをするか、申請段階で分析をするようにしています。

今後も、しっかり具体的に調べていきたいと思います。

(鈴木委員)

子どもは大人の分析をもとに選択するわけではないので、保護者や子どもの意  
見を重視し、活かさなければ、活動として成果が出てこないと思います。是非、  
そこは早急にとりかかっていただき、次に定員を出すときに、結果を見てがっか  
りしないようお願いします。

(山田教育長)

他にありませんか。

(岩崎委員)

今の質問と関連しますが、9ページの高校入試結果のところ、採択校19校のうち、定員が充足した高校が2校、欠員が減少した高校が8校で、19校中の10校が上向いているという書き方ですが、逆に言うと19分の9は成果が出なかったとも読めます。

高校の魅力化事業ということで、それぞれの学校で取り組んでいただいたことは非常に素晴らしいと思います。大きく人口も減少して、中学生も少なくなっている中で、やはり高校入試で定員がなかなか充足までいかないという大きな原因を、きちんと把握しなければならない。将来像をきちんと見据えてどのような対策を立てるかを考えなければならないのではないかと思います。

学校は地域にとって大きな役割を担う場所でもあるため、なんとか学校を含めて地域の活性化も図りたいと考えています。欠員が生じている原因分析をし、しっかりした対策を考えていただきたいと思います。よろしくお願いします。

(小野高校教育課長)

ご意見を参考にさせていただきます。地方では、生徒数が減少しており、それに見合った定員を振ることができているかわかりませんが、地域人材や専門的な産業人材の育成に向け、そのために学科をしっかりと維持していくような取組をしています。生徒数と定員の振り方の難しさもありますが、一方で、私立高校や県外の通信制高校など、進路が非常に多様化している中で選ばれる学校になるためには、中学生が公立高校の何に魅かれているのかということを探る必要があると考えています。

(岩武委員)

今のことで、さらに関連しますが、全県一区のことも色々なところで話題になっています。地方の県立高校の生徒数が少なくなっている、その一つの原因として難関大学とか国立大学とかの進学率が落ちているからではないか、という意見もあると思います。私はそうではないのではないかと考えているのですが、そういう懸念があります。

中心部の大分市と地方の教育に格差が懸念されており、オンラインで授業を配信することになりました。これにより、どこの学校に通っていても、一定水準の授業を受けられるようになります。これは、地方の学校の定員を確保するための、全県一区を維持していくための一つの施策だと、私は思っています。

魅力化事業をやるとすれば、保護者のニーズとのずれを検証する必要もあると思います。おそらく保護者は、進学実績や教育活動などのわかりやすいところで学校を選ぶのではないかと思います。様々なニーズがあることから、産業人材育成や地域人材育成のためにこういう取組をしています、だから来てください、と

言われても、という面もあると思います。

それと、この DX 化の事業について、選択した学校はどのような基準で選択したのか、それと、これからやろうとしている遠隔配信と関係があるのか教えてください。魅力化事業、DX ハイスクール、遠隔配信、これらに一つの関連性や理念がありますか。

(小野高校教育課長)

最初のご質問ですが、保護者のニーズについては、一昨年、中学生とその保護者にアンケートをとりました。もちろん、高校生とその保護者にもお答えいただきました。その中で高校の魅力はどういったものかという答えで多かったのが、大学や企業等と連携した学び、学校内で完結しない学び、それからこれは生徒も保護者も共通していますが、コミュニケーション力を育成するような学びを望んでいるという答えがありました。この地域との協働による魅力化については、異世代間の交流によりコミュニケーション力を鍛えたり、大学や企業との連携を進めたりしております。その部分においては合致するところもあると考えています。

DX ハイスクールについては、申請したのは12校で、すべて採択されましたが、文部科学省から通知が来たのが今年の1月末、学校に通知したのは2月でした。その段階では、学校においては探究の学びの年間計画を決めており、計画を動かすづらい面もありました。しかし、柔軟に対応でき、理数系の学びやデジタル系の学びを進めることに合致する学校12校が申請したということです。遠隔配信とは完全にリンクしているわけではありませんが、今後、どのように活用していきたいかを研究したいと思います。

(山田教育次長)

フレームとして、この魅力化事業や DX ハイスクールについては、総合的な探究の時間などで、子どもの資質・能力で言えば探究力・非認知能力の向上、進路の観点で言えば、総合型選抜に積極的につなげていきたいと思います。

一方で、遠隔配信についてはある程度、英語・数学という教科に絞り、ペーパーテストに向けた学力につなげていくという、そういった棲み分けをする取組を考えています。

(岩武委員)

わかりました。

(山田教育長)

他によろしいでしょうか。

(高橋委員)

可能であれば、高校入試の時期に、中学生を対象に「将来何がしたいか」というアンケートをとっていただければと思います。何になりたいではなく、何がし

たいか、それが自分に合う高校の発見につながると思います。

子どもたちを見ていると、行きたい高校よりも、やりたいことのほうに思いがあるように見えます。高校を選択する際、保護者がその思いを認識して、上手くその方向に持っていくような環境をつくってあげないといけないのが現実だと思います。そういったことも含めて、子どもが何をしたいのか、というアンケートを見てみたいです。義務教育ともかかわると思いますが、もし可能であれば、是非お願いします。

(山田教育長)

よろしいでしょうか。ありがとうございました。

(山田教育長)

最後にその他、何かありますか。

それでは、これで令和6年度第6回教育委員会会議を閉会します。

ありがとうございました。